

10月26日(木)の7限に、第2学年国際理解講演会を行いました。本校卒業生でもある、津島市教育委員会 教育長 浅井 厚視 様にお越しいただき、「横井照子と津島高等女学校」という演題でお話しいただきました。

「横井 照子」さんは、大正13年生まれで、本校の前身である「津島高等女学校」を卒業し、上京。女子美術大学の聴講生となり、また木下孝則氏に師事し、美術を学びました。昭和28年には単身渡米し、抽象美術も学びながら、国際的な画家としてアメリカやヨーロッパで活躍されました。日本では、岐阜県恵那市の「横井照子ひなげし美術館」や静岡県富士市の「横井照子富士美術館」が開館されています。

生徒たち、特に女子は、今とは違って簡単に外国へ行ける時代ではない時に、単身アメリカへ渡って夢を実現した大先輩の生き方に感動した人も多かったと思います。また、女学生の時から、絵だけでなく、詩や短歌などにも津島の情景を詠い、豊かな学生時代を送っていたことを知りました。

以下は、生徒の感想の一部です。

～ 特に心を動かされたのは、横井照子さんの短歌です。私たちのような高校生でも共感できるような、フレッシュでありながら温かみのあるものばかりでした。そして、その歌が我らが津島高校に今も文集として残っていることが驚きでした。改めてこの高校の歴史の厚みを肌で感じる事ができたように思います。そしてぜひ図書室への足を運んで、実際に手に取って読んでみたいなと思います

もう1つ、強く印象に残っているのが、横井照子さんの行動力の高さです。あの時代に女性が単身アメリカへと飛び立つことにどれだけの覚悟と勇気が必要だったかと考えると、本当にすごい心持ちだったのだなと思います。そのような人が自分の通う高校の卒業生にいらっしやることは誇り高いなと感じました。

このようなことに気づけたのも、浅井先生がこの地域の歴史を振り返ってくださったおかげだと思います。初めて知ることだらけでとても興味深く聞かせていただきました。ありがとうございました。

2年 O.Yさん

